



**うれしく、
たのしく、
ディー アイ シー
DIC**

化学で暮らしをステキにしたい！
うれしい笑顔、たのしい笑顔が見たいから。

DICは、
「化学で彩りと快適を提案する」
ケミカルカンパニーです。

ディーアイシー
DIC株式会社
<http://www.dic-global.com/>

而才

ジュラコン®。耐久性に優れたスーパーな材料。

様々な環境下で酷使される生活家電や、安全性が最重要視される自動車部品は、どんな状況においてもその特性を保ち続けることが求められます。長時間、広範囲の温度下で、引張り強さ、伸び、衝撃強さなどの様々な機械的特性をバランスよく保ち続けるのが、POM樹脂ジュラコン®の特徴です。非常に優れた耐疲労性や繰返し応力。連続振動使用にも安定した性能を保持することから、主として歯車やねじ、軸受けなどの機械要素部品を中心に活躍しています。

Polyplastics

ポリプラスチックス株式会社
〒108-8280 東京都港区港南二丁目18番1号 JR品川イーストビル TEL:03-6711-8600 www.polyplastics.com

海外で水資源確保

水処理

政府、国際規格作りへ

三菱レイヨン工場、使った水を再生利用し、排水を出さない水処理装置の販売を始めた。中国で排水の放流を認めていない工業団地に入居する自動車部品メーカーに1日約20トンの排水再生利用能力がある装置を導入した。装置は生物処理と膜濾過を組み合わせた膜分離活性汚泥法(MBR)で排水を浄化、逆浸透(RO)膜で再処理し、工業用水として再び利用する。処理過程で出る汚泥などの残渣を除き、排水をほぼ100%再生利用できる。水不足や水質汚濁が深刻な地域では水の再生利用を義務化する動きが広がる。アジアや中東を中心に水資源の安定確保の必要性を訴求する。

明電舎は浄水場の水質向上に使われる水処理膜事業に参入。中国のエンジニアリング会社と連携し、オゾン酸化力で殺菌するオゾン処理装置と、同社のMEMBRANS製水

国内の水処理関連企業はアジアや中東で環境需要の取り込みを積極化する。水不足などに貢献する水の再生利用は高度な処理技術が必要で、この分野では国内企業が高度な技術力を持つ。また、政府も国際規格作りで企業の海外展開を支援。中国や韓国とも連携し、水の再生利用に関する規格作りなどを進める。

処理膜を組み合わせたシステムの実証試験を始めた。同社の水処理膜は素材にセラムックスを採用し、一般的な水処理膜市場で普及する有機膜と比べ、耐久性に優れる。膜の損傷も少なく、ランニングコストの抑制が期待できる。これまで一般的な有機膜ではオゾンの酸化力に耐えられず劣化して寿命が短くなることなどから、膜には耐久性が求められていた。

政府は国内企業の取り組みを国際規格作りで後押しする。下水などを再生した水を安全に利用するため、処理水質の評価方法や水処理技術の規格作りを乗り出した。中国と韓国に規格案を提示し、両国から大筋で合意を得た。日中韓の3カ国は日本と中国が共同幹事国を務める国際標準化機構(ISO)の規格作り現場でも、日本案をもとに規格化を目指すことで一致した。ISOは下水を再生利用する水処理システムや水処理膜の性能を評価する基準などをつくり、2016年にも規格の発行を予定する。

水再生利用では日本企業が高度な技術力を持つ(東京・新宿の落水水再生センターの膜濾過施設)

成長産業取り込み

アジアで事業拡大 機能性樹脂開発に力

インキ

DICは日本のインキ事業で拠点再編などを進めて収益の改善につなげた。現在は欧米を中心に大幅な合理化を進めている。一方、今春に中国

国内市場で合理化を進めたインキメーカーが成長分野での事業拡大はもろろん、テレビやスマートフォン(スマホ)、リチウムイオンバッテリー、自動車など用途とした機能性樹脂の開発と販売にもいっしょ力を入れる。

今夏にベトナムで飲食料用軟包装などに使うラミネーションの工場が稼働した。また、同社はテレビやスマホ用ディスプレイに使われる液晶やカラーフィルター用原料などの電子材料で高いシェアを持つ。2015年度までの中期経営計画ではそのシェアをさらに高める目標を掲げた。

東洋インキSCホールディングスは印刷材料機器などの構造改革を実施した。一方、中国、インドで現地企業と連携し、ペルギーの現地企業を買収するなど、海外事業拡大も進める。機能性樹脂では太陽電池用部品やリチウムイオンバッテリー電極材料といったエネルギー

分野に注力する。サカタインクスは滋賀県米原市に約60億円を投じて新工場を建設。来春稼働する。物流の効率化へとつなげるほか、新工場ではインクジェット用原料分散液などの機能性材料を生産する。大日精化工業は14年2月に全額出資子会社の北海道大日精化工業を本体に吸収合併する。13年4月に関東と関西、中部にある子会社を統合したの

に続き、国内事業の合理化を進める。一方、自動車向けの樹脂コンパウンドや樹脂樹脂などの販売を伸ばしている。インキ製造には顔料や溶剤に使う原料の選定や原料の配合比率、攪拌、調色など各種の製造工程の中にデジタル化が難しいとされる製造条件が詰まっている。各社ともこの技術やノウハウをスマホなどを使う先端の機能素材にも生かしたい考えだ。

印刷インキ需給実績

年	出荷量 (千)	生産量 (千)	出荷額 (億円)
01	450	450	4,000
02	450	450	4,000
03	450	450	4,000
04	450	450	4,000
05	450	450	4,000
06	450	450	4,000
07	450	450	4,000
08	450	450	4,000
09	450	450	4,000
10	450	450	4,000
11	450	450	4,000
12	450	450	4,000

※2012年は各月の数値を合算した値で確定値ではない (印刷インキ工業連合会の資料から作成)

Chemway

描きたい夢が、
いっぱいある。

since 1959

化学、夢への道
丸善石油化学株式会社
<http://www.chemiway.co.jp/>

DENKA

電気化学工業株式会社
<http://www.denka.co.jp/>

化学の力で よりよい 未来を拓く

いつまでも信頼される、ものづくり企業を目指します。

デンカは1915年の創業以来、「独自のモノづくり技術」と「真摯な姿勢と誠実な対応」というDNAを持ち続け、次の100年に向け「資源」から「価値あるモノ」を生み出す企業を目指します。

Chemicals for the Next Generation